

2017 年度（対象年度：2016） 自己点検・評価シート

基準3	教育研究組織
-----	--------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目	自己評価	
	点検項目（評価の視点）	現状	改善
301	大学の理念・目的に照らして、学部・研究科、附置研究所、センターその他の組織の設置状況は適切であるか。	B	B
	①大学の理念・目的と附置研究所、センター等の組織の適合性		
	②研究組織と学問の動向、社会的要請、大学を取り巻く国際的環境等への配慮		

2 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。
301① 学則第1条の目的を達成するため、大学の附属施設として、5つの付置研究所及び人間・科学・宗教総合研究センター（以下、「人間総研センター」という。）と世界仏教文化研究センター（以下、「世仏研センター」という。）を設置し、研究活動を展開している [301a]。 付置研究所は、本学の教育理念・目的に基づき編成された学部・研究科に応じて設置している [301b]。 人間総研センターは、本学が所有する研究資源を活かし、人間・科学・宗教に関連する高度な研究成果を国内外に発信し、本学が戦略的に行う研究を推進することを目的として設置している [301c]。 世仏研センターは、仏教を機軸とした国際的な研究拠点を形成し、学術研究の遂行を通じて現代社会の切実な諸課題に応え得る指針を提示することによって、社会へ貢献することを目的として設置している [301d 資料2-1、資料2-2：3頁]。 これらの研究組織は、それぞれの目的を関係諸規程に定めている。また、その目的に照らし、それぞれの運営委員会等において、毎年度、研究活動の内容及び進捗状況の報告に基づき点検・評価している。 個別の点検・評価としては、次のとおり行っている。 [付置研究所] 毎年度、研究活動の内容及び進捗状況の報告に基づき点検・評価している [301e]。 [人間総研センター・世仏研センター] 傘下の各研究プロジェクトについては、原則として、5年プロジェクトの場合は2年目及び4年目、3年プロジェクトの場合は、2年目に外部評価を実施している [301f]。 2016年度は、ブランディング事業1件（犯罪学研究センター）と、戦略支援事業プロジェクト2件（革新的材料・プロセス研究センター、アジア仏教文化研究センター）について、学外有識者による外部評価を実施した。[301g] また、2015年度には「付置研究所の活性化に向けた運営体制の見直し」について、研究企画委員会及び研究所長会議で検討し、2015年度第4回研究所長会議 [301h] において検討結果の総括を行い、各付置研究所の役割や研究分野の明確化を行うことで募集分野の拡大を図る等の改善を行った。特に、国際社会文化研究所では、研究プロジェクトの研究活動成果を積極的に学内外へ発信し、研究所の研究活動を活性化させることを目的に従来の研究所にはない新たな研究成果評価制度を導入した。具体的には、研究プロジェクト終了後に研究成果（学術会議での発表、論文発表、図書、学外資金獲得）の提出を求め、これに評点を付し、評点を次の申請の審査時に加

点できる制度とし、2016年度試行的に実施した〔301i〕。他の付置研究所においては、2016年度、改善した研究プロジェクトの募集内容や方法等の状況をモニタリングしているところである。

以上のとおり各付置研究所、人間総研センター、世仏研センターにおいて評価の実施や改善に取り組んでおり、概ね適切に実施していると評価する。

301②

人間総研センターは、本学が有する資源を活かし、人間・科学・宗教に関連する高度な研究成果を国内外に発信し、本学が戦略的に行う研究を推進するものとして位置づけている。〔301c 第1条〕これまで、人間総研センター傘下の研究プロジェクトは、文部科学省私立大学戦略的基盤形成支援事業に採択された実績を有し、2016年度は、3つの研究プロジェクトを展開している。2016年度は、新たに募集が開始された私立大学研究ブランディング事業に申請し採択された〔301j・301k・301l〕。このような実績を見た時、研究を取り巻く社会的要請に対応した取り組みがなされていると評価する。

世仏研センターは、第5次長期計画の研究分野における新たな展開として、本学が積み重ねてきた仏教研究の実績を基礎にさらに発展的かつ国際的な研究拠点を形成することを目的として設立された〔301d 資料2-2：3頁〕。世仏研センターは、3つの部門（基礎研究部門、応用研究部門、国際研究部門）を軸に研究を推進している。また、応用研究部門では、附属研究センター（人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター）に加えて、2015年度に文部科学省私立大学戦略的基盤形成支援事業に採択されたアジア仏教文化研究センターの研究活動を展開している〔301n〕。

すでに①に記載したとおり、人間総研センター及び世仏研センターの下で展開する各研究プロジェクトは、それぞれ学外有識者による外部評価を実施しており、学問の動向、社会的要請、大学を取り巻く国際的環境等への配慮ができているものと認識している。

これら付置研究所・センターの研究活動や研究成果については、各年度において紀要や報告書等の定期刊行物にまとめて公開している。

今後は、本学の研究活動の成果についてウェブサイトを通じてさらに広く社会に情報発信を行う予定である。

長所・特色《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの	
301	犯罪学研究センターの私立大学研究ブランディング事業としての採択
課題事項《箇条書き》 *伸長すべき点、改善すべき点	
301	ウェブサイト等を通じた研究成果の発信

3 伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

対象年度における取り組み *成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
301①	「教育・研究組織の編制原理」の策定について、教学部及び教学企画部と協力・連携し、原案を作成し、研究企画委員会〔301o〕、全学研究会議〔301p〕にて審議した。会議で出された意見を元に、今後、さらに教学部と調整をし、策定に向けて進めていく。〔2016年度努力課題への対応〕
301②	私立大学研究ブランディング事業の新設に伴い、2016年度第3回全学研究高度化推進会議（2016/11/2開催）において、学内での研究プロジェクトの選定プロセスを再構築し、「龍谷研究ブランディング事業」の制度を新設した〔301m〕。〔2016年度留意点への対応〕

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
301	「教育・研究組織の編制原理」の策定について、引き続き、教学部及び教学企画部と協力・連携し、策定に向けて進めていく。
301	私立大学研究ブランディング事業に継続的に採択されるよう他大学の取組を調査する。
301	研究広報を充実させるためウェブサイトによる情報発信を積極的に行う。

4 根拠資料

項目 No.	根拠記号	根拠資料の名称
301	a	大学ホームページ（HOME> 研究> 研究所・研究センター）
301	b	各付置研究所の規程
301	c	人間・科学・宗教総合研究センター規程
301	d	2014 年度第 15 回評議会（2015/2/26 開催）資料
301	e	各付置研究所の研究プロジェクトの評価要項
301	f	2016（平成 28）年度外部評価の実施について（提案）
301	g	研究プロジェクトの外部評価実施状況一覧
301	h	2015 年度第 4 回研究所長会議議事録（2016/3/15 開催）
301	i	社文研プロジェクト評価要項
301	j	私立大学研究ブランディング事業について
301	k	2016 年度第 4 回評議会（2016/7/7 開催）資料
301	l	2016 年度第 22 回部局長会（2016/11/24 開催）資料
301	m	2016 年度第 3 回全学研究高度化推進会議（2016/11/2 開催）資料
301	n	2016 年度第 2 回評議会（2016/5/12 開催）資料
301	o	2016 年度第 1 回研究企画委員会議事録（2017/3/13）
301	p	2017 年度第 1 回全学研究会議議事録(2017/4/27)

Ⅱ. 評価結果

総評
301①本学が設置する5つの付置研究所並びに人間総研センターと世仏研センターについては、関係諸規程に定めた目的に照らし、それぞれの運営委員会等において独自の評価を実施していることは評価できる。特に、国際社会文化研究所では、研究プロジェクトの研究活動成果を積極的に学内外へ発信し、研究所の研究活動を活性化させることを目的に従来の研究所にはない新たな研究成果評価制度を導入したことは評価できる。 努力課題として指摘された「教育・研究組織の編成原理」の策定については、2016年度において、教学部及び教育企画部との協議を踏まえてその原案を作成し、研究企画委員会及び全学研究会議にて審議された後、教学部との調整を経て、2017年7月に完了するスケジュールとしている。 301②2016年度から新たに募集が開始された私立大学研究ブランディング事業に採択されたことから、研究を取り巻く社会的要請に対応した取り組みがなされていると高く評価する。また、私立大学研究ブランディング事業の新設に伴い、学内での研究プロジェクトの選定プロセスを再構築し、「龍谷研究ブランディング事業」の制度を新設したことは評価できる。 今後は、本学の研究活動の成果について、ウェブサイトを通じてさらに広く社会に情報発信されることに期待したい。
長所・特色《箇条書き》
・人間総研センター及び世仏研センターの下で展開する各研究プロジェクトにおける学外有識者による外部評価を実施している点は評価できる。
課題事項《箇条書き》 *各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載
・「教育・研究組織の編成原理」について、期日である2017年7月に策定されたか確認されたい。【努力課題】 ・研究広報を充実させるためウェブサイトによる情報発信を積極的に行っていただきたい。【留意点】

2017 年度（対象年度：2016） 自己点検・評価シート

基準3	教育研究組織
-----	--------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目 点検項目（評価の視点）	自己評価	
		現状	改善
301	大学の理念・目的に照らして、学部・研究科、附置研究所、センターその他の組織の設置状況は適切であるか。	B	B
	①大学の理念・目的と学部（学科または課程）構成及び大学院研究科（研究科または専攻）構成との適合性		
	②教育組織と学問の動向、社会的要請、大学を取り巻く国際的環境等への配慮		

2 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。	
301①	学部、研究科の設置に際しては、「建学の精神」を具現化するという観点に基づき設置の必要性について審議が重ねられ、最終的に評議会で確認している。また、「建学の精神」に基づいて、各学部、研究科の理念・目的が策定され、「龍谷大学学則」「龍谷大学大学院学則」に定めており [301①a]、大学の理念・目的と学部構成及び大学院研究科構成は適合していると認識している。 しかし、2015 年度、新たに「龍谷大学の教育理念・目的」を設定し、その教育理念・目的と学部・研究科の目的の連関性を担保するため、「学部・研究科の『教育理念・目的』と3つの方針（「学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」）策定の基本方針」を設定した。[301①b] そのため、大学と各学部の教育理念・目的との連関性、また、各学部の教育理念・目的と3つの方針との連関性等をあらためて見直すため、全学教学会議のもとに「3つの方針一体的見直し作業部会」を設置し（2016 年度第2回全学教学会議〈2016.9.27〉承認）[301③c]、見直しを行っている。
301②	学部、研究科では、学修支援・教育開発センター会議、入試委員会、全学グローバル教育推進会議、全学キャリア会議等に委員を選出し、それら会議を通じて、学問の動向、社会的要請、大学を取り巻く国際的環境等について共通認識等を図っており、それらに対して適切に配慮していると認識している。 しかし、各学部が、学問の動向、社会的要請、大学を取り巻く国際的環境等の様々な外部要因を踏まえつつ、より一体的に教育の質向上に向けて取り組めるように、「3つの方針一体見直し作業部会」を通じて、教育の質保証に向けた体制整備について検討を行っている。[301②a]
長所・特色《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの	
301①	「龍谷大学の教育理念・目的」、「学部・研究科の『教育理念・目的』と3つの方針（「学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」）策定の基本方針」の策定による教育組織の編成原理の明確化。
301①	「龍谷大学の教育理念・目的」、「各学部の教育理念・目的・3つの方針」の整合性を組織的に検証する「3つの方針一体的見直し作業部会」の設置、作業着手。
課題事項《箇条書き》 *伸長すべき点、改善すべき点	
301①	「3つの方針一体的見直し作業部会」における見直し作業の継続。
301②	「3つの方針一体見直し作業部会」を通じた教育の質保証に向けた体制整備の検討。

3 伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

対象年度における取り組み *成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
301①	「龍谷大学の教育理念・目的」、「学部・研究科の『教育理念・目的』と3つの方針（「学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」）策定の基本方針」を策定し、教育組織の編成原理をより明確にした。
301①	「龍谷大学の教育理念・目的」と各学部の教育理念・目的、また3つの方針との整合性を組織的に検証するための「3つの方針一体的見直し作業部会」を設置し、全学的に作業を進めている。

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
301①	大学と各学部の教育理念・目的との整合性、また、各学部の教育理念・目的と3つの方針との整合性を見直すため、「3つの方針一体的見直し作業部会」の見直し作業を継続する。
301②	「3つの方針一体見直し作業部会」を通じて、教育の質保証に向けた体制の整備について検討を行う。

4 根拠資料

項目 No.	根拠記号	根拠資料の名称
301①	a	龍谷大学学則 龍谷大学大学院学則
301①	b	龍谷大学の教育理念・目的（URL： http://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy.html ）
301①	C	3つの方針一体的見直し作業部会の設置について（提案）<2016年度第2回全学教学会議 資料>
301②	a	3つの方針一体的見直し作業部会における2016年度の作業結果及び2017年度の主な作業内容について（報告）<2016年度第5回全学教学会議 資料>

Ⅱ. 評価結果

総評
301①本学の学則では、その目的を「本学は教育基本法及び学校教育法にしたがい、浄土真宗の精神に基づく大学として、広く知識を授けるとともに、深く専門の諸学科を教授研究し、併せて有為の人材を養成することを目的とする」と定めている。この評価項目では、その目的を実現するために、教育研究組織を適切に整備することが求められている。自己点検・評価における説明では、「学部、研究科の設置に際しては、「建学の精神」を具現化するという観点に基づき設置の必要性について審議が重ねられ、最終的に評議会で確認している」とあるが、各組織の設置状況の適合性について検証されることが必要であろう。 301②学問の動向、社会的要請、大学を取り巻く国際的環境等への配慮に関しては、学修支援・教育開発センター会議等の会議体において共通認識等を図られているとの記載があるが、その根拠を確認することができない。「3つの方針一体見直し作業部会」において、学問の動向、社会的要請、大学を取り巻く国際的環境等の様々な外部要因を踏まえた検討を行っていただきたい。
長所・特色《箇条書き》
課題事項《箇条書き》 *各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載
・「3つの方針一体見直し作業部会」において、学問の動向、社会的要請、大学を取り巻く国際的環境等の様々な外部要因を踏まえた検討を行っていただきたい。【留意点】